氏　　名	石　舘　美弥子
学 位 の 種 類	博士（人間科学）
学 位 記 番 号	博甲第 206 号
学位授与の日付	2016 年 3 月 31 日
学位授与の要件	学位規則第４条第１項該当
学位論文の題目	医療処置を受ける幼児の対処行動を高めるオノマトペの効用
論 文 審 査 委 員	主査　神奈川大学　教授　瀬　戸　正　弘
	副査　神奈川大学　教授　斎　田　真　也
	副査　神奈川大学　教授　杉　山　　崇
	副査　健康科学大学　教授　竹　村　眞　理
	副査　同志社女子大学　教授　眞　鍋　えみ子

【論文内容の要旨】

近年，小児医療では，子どもの権利を保障し子どもが主体的に治療や処置に臨めるように関わる援助として，プレパレーションが重要視されるようになってきた．“プレパレーション”とは，治療や検査を受ける子どもに対し，認知発達に応じた方法で，病気，入院，手術，検査，その他の処置について説明を行い，子どもや親の対処能力を引き出すような環境および機会を与えることである．また，小児医療の現場では，幼児に対して頻繁に用いることばにオノマトペがある．“オノマトペ”とは，実際に存在する音に真似てことばとする擬音語と，視覚・触覚など聴覚以外の感覚印象をことばとする擬態語の総称を意味する．注射や採血を「チックン」，血圧測定を「マキマキ」「シュポシュポ」などがその例であり，言語能力の未熟な幼児にとって感性的に理解できることばと言える．このオノマトペを活用した医療処置の説明マニュアルを作成することで，小児医療の現場でプレパレーションが容易に実施できるのではないかと考えられる．

本研究の目的は医療処置を受ける幼児を対象にオノマトペを用いたプレパレーションを実施し，その有効性を検証することである．

本論文の構成は，以下に示す通りである．

序　章　はじめに
第１章　問題提起と研究目的
第２章（研究 1）　小児病棟看護師が使用するオノマトペの調査
第３章（研究 2）　看護学生が使用するオノマトペの調査
第４章（研究 3）　採血場面の全国調査とオノマトペの説明マニュアルの作成
第５章（研究 4）　小児医療オノマトペ活用評価の因子分析
第６章（研究 5）　オノマトペを用いた介入研究
第７章　総合的考察

序章では，研究の動機，背景，構成などが述べられた．

第 1 章では，先行研究を概観し，研究を進める上での目的・課題が示された．それらは，①幼児への医療処置場面で使用されているオノマトペを調査し実態を把握する，②幼児に用いられているオノマトペを整理して医療処置場面に応じたオノマトペ標準説明マニュアルを作成する，③医療処置を受ける幼児を対象にオノマトペ標準説明マニュアルを用いたプレパレーションを実施してその有効性を検証する，というものであった．

第 2 章（研究 1）では，小児病棟看護師を対象に医療処置場面におけるオノマトペの実態調査を行った．その結果，小児病棟看護師の発話には，オノマトペ表現が豊富であり，特に動作に関するオノマトペが多いことが明らかとなった．また，その統語的構造として「オノマトペ＋する動詞」，「繰り返し表現のオノマトペ」「オノマトペ＋一般動詞の組み合わせ」といった特徴が明らかにされた．

第 3 章（研究 2）では，小児病棟で実習する看護学生を対象に医療処置場面における幼児へのことばかけの調査を実施した．その結果，小児看護学実習前後に言語的対応に差がみられ，小児看護学実習後の方にオノマトペとの強い関係性が示された．看護学生は小児病棟での学習を経験することで，幼児への説明にオノマトペが増えることが明らかとなった．

第 4 章（研究 3）では，研究 1 と 2 で得られた知見をもとに，医療処置場面を採血に限定し，医師・看護師を対象に全国調査を実施した．その結果，幼児への説明に活用されるオノマトペ語彙には全国的に統一性があり，地域差はほとんどみられないことが明らかとなった．本結果を受けて，採血手順に沿った幼児への標準的な説明マニュアルが作成された．

第 5 章（研究 4）では，オノマトペに対する医師・看護師のイメージを測定するための活用評価尺度を作成し，因子分析などによって，その妥当性と信頼性を確認した．子どもにかかわる医療従事者が，オノマトペを使用することに対して肯定的イメージを持つことで，医療処置場面でオノマトペを積極的に使用することが期待される．本尺度は次の研究 5 で使用された．

第 6 章（研究 5）では，採血を受ける幼児を対象に，研究 3 で作成されたオノマトペ標準説明マニュアルを用いたプレパレーションを実施し，その有効性を検証した．総合病院小児科外来を受診して採血を受ける 3 歳から 6 歳の幼児を，オノマトペを使用して説明を受ける群（オノマトペ群）15 名とオノマトペを使用せずに説明を受ける群（非オノマトペ群）15 名に割り当てるランダム化比較試験を実施した．検証すべき仮説は“オノマトペ標準説明マニュアルを用いることによって，幼児の苦痛が軽減し，協力行動が高まり，情動が安定する”であった．

測定指標は，採血後の苦痛の主観的評価として FACES Pain Rating Scale（FRS），生理学的指標として心拍数および動脈血酸素飽和度，客観的評価として行動スコアである FLACC（Face，Legs，Activity，Cry，Consolability）Behavioral Scale（FLACC）を使用した．測定ポイントは，採血前（ベースライン），採血直後，採血 5 分後の 3 回を設定した．心理統計法を用いてデータ分析した結果，オノマトペ標準説明マニュアルによってプレパレーションを実施することで，幼児の苦痛の低減に繋がることが明らかとなり，子ども自身の対処能力を高めるオノマトペの効用が確認された．

第 7 章では，研究全体を総括し，オノマトペ標準説明マニュアルの利点，応用可能性などが整理された．さらに，オノマトペ標準説明マニュアルをより一層発展・充実させるための今後の課題が述べられた．

【論文審査の結果の要旨】

本論文は，オノマトペを用いたプレパレーションが医療処置を受ける幼児に与える影響を明らかにすることを目的として，医療処置場面で使用されているオノマトペを調査した後，採血を受ける幼児へのオノマトペ標準説明マニュアルを作成し，介入研究と丁寧なデータ分析によってその効果を検証した．

オノマトペ標準説明マニュアルは，①看護師へのインタビュー調査，②看護学生への質問紙調査，および③医師と看護師への全国調査をもとに，必要なオノマトペを厳選して作成された．採血手順に沿ったオノマトペを用いた説明は，子どもにとってわかりやすく，状況喚起力，身体性，心情融和性を持つ表現であるという特徴があり，採血に向かう子どもの努力を支援して苦痛を軽減することに繋がり，その効用が高いことが明らかにされた．介入研究によってオノマトペ標準説明マニュアルの有効性が実証されたことで，プレパレーションを実施する際に，オノマトペを活用することにエビデンスを示すことが初めて可能になったと言える．以上の観点から，本論文の成果は高く評価することができる．

また，具体的なオノマトペ標準説明マニュアルが作成されたことにより，小児医療現場で，容易に，的確に，プレパレーションを実施することができるようになった点も評価に値する．オノマトペは，小児医療における初学者の看護学生および新人看護師のコミュニケーション能力の向上に役立つとともに，広く医療従事者に共通表現として利用されれば，幼児とその家族に対して，より一層の医療行為の理解を促進することにも繋がると期待される．

さらに，オノマトペは，心理臨床における幼児へのカウンセリングでの利用など，小児医療を超えた多くの領域での活用可能性を有していることが明らかにされた．すなわち，オノマトペの効用は，今後の医療・小児看護領域および心理臨床領域で大きな貢献が期待されることから，本論文の成果は，これらの研究領域を切り拓くために大きな価値があるものと認められる．

以上より，人間科学研究科博士論文評価基準を満たした本論文は，博士の学位を授与するに相応しい論文であると審査員全員一致で認定した．